

平成 30 年度第 1 回地域助け合い創出研究会 アンケート集計結果

○開催日:平成 30 年 6 月 29 日(金) 13:30~16:00

○内 容:活動事例紹介

-陸前高田市「暮らしささえ隊」養成講座の取り組みについて

発表者:陸前高田市民生部保健課 主事 佐藤隆氏

住田町「よりあいカフェ事業」の取り組みについて

発表者:社会福祉法人住田町社会福祉協議会総務課 課長補佐 菅野英子氏

地域の現状・課題を知るためのアンケートを実施して

発表者:日頃市地区助け合い協議会事務局長兼生活支援コーディネーター 船野克之氏

○参加者:84 人

(内訳)	地域助け合い協議会委員	17 人	(20.2%)
	民生委員	31 人	(36.9%)
	地域の代表者(地域公民館長等)	6 人	(7.2%)
	介護事業所関係	3 人	(3.6%)
	その他	27 人	(32.1%)

○回答者:51 人 (回収率 60.7%)

① 年代	20代	1 人	(2.0%)
	30代	0 人	(0.0%)
	40代	4 人	(7.8%)
	50代	4 人	(7.8%)
	60代	23 人	(45.1%)
	70代以上	19 人	(37.3%)
② 性別	男性	26 人	(51.0%)
	女性	25 人	(49.0%)
③ 回答者の内訳	地域助け合い協議会委員	15 人	(29.4%)
	民生委員	21 人	(41.2%)
	地域の代表者(地域公民館長等)	6 人	(11.8%)
	介護事業所関係	3 人	(5.9%)
	一般市民	2 人	(3.9%)
	その他	2 人	(3.9%)

	未記入	2人 (3.9%)
④ 参考になったか	大変参考になった	27人 (52.9%)
	参考になった	23人 (45.1%)
	参考にならなかった	1人 (2.0%)
⑤ 今後の地域での活動に取り入れられること	ある	39人 (76.5%)
	ない	7人 (13.7%)
	未記入	5人 (9.8%)

* 「ある」場合、取り入れたいと思ったこと

- ・ 全て
- ・ アンケート調査 5名
- ・ 日頃市地区のアンケートは、大変良く、細かく、統計作成も見やすく良かった。
- ・ 住田町のよりあいカフェ事業について 3名
- ・ グループワークの際に出ました。「簡単に考えることが実行しやすいこと」
- ・ アンケートで町民が助け合いについてどれだけ知っているか、必要性など
- ・ 補助金申請での支援、申請書作成の際の支援など
- ・ 住民総参加のまちづくり
- ・ やりやすいことから始める方が、最終的には近道である。最初から何もかもやろうとしないこと。
- ・ サロンの充実とアンケートの実施
- ・ 閉じこもりの老人が多いので、少しでも笑顔にしてあげたい。
- ・ 中学生の取り込み
- ・ 若者のボランティア参加
- ・ 事務局体制がしっかりしていること。
- ・ 住民の声を吸い上げて活動している。
- ・ これということなく、何にでも取り組むことをすると、きっかけになると感じた。
- ・ 暮らしささえ隊の養成講座
- ・ 年間のテーマを決めてのサロン活動
- ・ 陸前高田市の暮らしささえ隊のような取り組み
- ・ 地域に必要なアンケートへつながっていることが聞けて良かった。
- ・ サロン等、気軽に集う場の開設、世代間交流も含む各人の趣味等
- ・ サロン活動について
- ・ ボランティア活動のあり方（有償か無償か）
- ・ 現在進行中だが、アンケートを実施したい。

- ・ 陸前高田市、住田町とも活動事例が示す通り、内容も濃く、進んでいるようで当地区協議体も是非参考にしたい。
- ・ 年代を超えた交流が必要
- ・ ボランティアの養成講座
- ・ 中心型カフェと地域型カフェの2通りで進めること
- ・ 支え合いの場（交流の場）を増やすこと
- ・ お茶っこサロン

⑥ 興味がわいたこと、学びとなったこと

- ・ 軽度なことから助け合いが出来ればと思った。
- ・ 小さいグループでのサロンは、交通の手段を考えなくてもよいと感じた。
- ・ 暮らしささえ隊養成講座の開催
- ・ サロンは、集まれる人数が少数でもやれるということと、無理に人集めをしなくて良いこと。
- ・ 3市の地域性が出ていた所が良かったのと、これを当地域に結びつけるにはどうしたら良いか考えさせられた。
- ・ 参加人数にこだわらない。「一人が元気になればいい」この言葉が前向きに捉えられそうです。
- ・ カフェが数多くあり、楽しそうです。
- ・ 住田町のよりあいカフェは、少人数でもやっているところがすばらしい。
- ・ 住田おたすけ隊は、若者の参加という面ですばらしいと思う。高齢者と若者のつながりがある。
- ・ 実態をつかむアンケートに興味
- ・ 日頃市町のアンケート調査は、よりわかりやすいと思いました。
- ・ 住田町の取り組みと地域型サロンの実施状況
- ・ 陸前高田市の暮らしささえ隊の取り組み
- ・ 陸前高田市、住田町のことが分かって良かった。
- ・ 70代、80代の人を中心になってカフェを運営、住民が主体となっていること。
- ・ 地域資源の活用、地域の良い所、良くない所の気づき
- ・ 陸前高田市のボランティア講座について
- ・ 住田町のサロン活動について
- ・ 日頃市地区の実態
- ・ 住田町の例～紹介はおもしろく為になった。
- ・ 介護予防について
- ・ サロンの参加人数に関係なく、一人でも元気になればいい。
- ・ 日頃市地区のアンケート調査
- ・ 日頃市地区のアンケート、ボランティア活動については是非参加したいという人が4%もいることは心強い。
- ・ 住田町の活動が先進的だ。

- ・暮らしささえ隊養成講座の内容について、詳しく知りたくなった。
- ・サロンの運営の方法
- ・地域性でサロンのニーズにさがあること。
- ・日頃市地区の現状。他地区でもアンケートをやってほしい。
- ・同じ地区でも各々の地域の文化や風習があると、1地区として簡単にはまとまらないという実情を聞くことが出来た。
- ・住田町のカフェは興味がわいた。場所も地域に密着していてよいと思いました。
- ・住田町のカフェ、日頃市地区のアンケート、陸前高田市の取り組み
- ・住田町の地域型カフェ、催す側も高齢者。
- ・陸前高田市の暮らしささえ隊養成講座について
- ・住田町のサロンの型の特徴
- ・日頃市地区のアンケート調査の分析の大変さ
- ・陸前高田市の暮らしささえ隊養成講座が良いと思いました。

⑦ 次回の参加	する	47人	(92.2%)
	未記入	4人	(7.8%)

⑧ 意見・要望

- ・他市町村でこのような素晴らしい活動をしていることを初めて知った。今後ももっと色々な事例をお聞きしたい。
- ・色々と考えますが、なかなか一歩が踏み出せないのが現状です。
- ・大変いい話し合い、情報交換になりました。
- ・第3層の指導・協力が必要と思う。
- ・同じ町内の方との話し合いが出来て良かった。
- ・事例紹介は2つ位でよい。講演もとり入れるとかずればよいと思う。(1H~1.5Hで)
- ・結果発表内容を文字にして全員に配布願う。
- ・どのような事を助けてくれるかではなく、助けられたい事は何かを知りたいです。(例：交通、食事等々)
- ・サロンに出掛ける方以外の方が、何を助けられたいのかを知りたいです。
- ・とても良かったです。
- ・地域でお茶っこ会をしました。で、終わっています。今後継続するためには、趣旨を広く地域で理解し、知っていく事が大事であると思いました。
- ・住田・大船渡・陸前高田等の情報交流
- ・今回のような地域に根差した話し合いが出来る研究会にしてほしい。
- ・陸前高田市の暮らしささえ隊の様なシステムが大船渡市でもあったら。
- ・時間が短いと思いました。またこのようなお話を聞きたいと思います。高田も住田も大変頑張っ

ていることを感じました。

- ・ 水分補給
- ・ サロン等の補助申請について、チラシや広報で知らせられるが見ない人もいます。平等に受けられるよう、老人クラブや地域公民館に情報を流し、知らせてもらうようにしたらどうでしょう。
- ・ 近隣の活動を知ることが出来て good。
- ・ もう少しグループワークの時間を取ってほしい。
- ・ グループワークの際に、隣近所の声が行き交って聞こえにくかった。
- ・ グループワークで、一人の人がずっと話して、意見「交換」になりにくかった。
- ・ ひとり一人の発言を短めにして、発言回数が増えるようにファシリテーターに促してほしい。
- ・ 携帯電話のマナーモードの励行を推進してもらいたい。
- ・ 今後も、他地区（市町村）の参考事例を示してほしい。
- ・ 3地区でしたが、1地区ずつでも良かったかと思いました。（もう少し1地区を詳しく）

平成 30 年度第 2 回地域助け合い創出研究会 アンケート集計結果

○開催日:平成 30 年 9 月 25 日(火) 13:30~16:00

○内 容:講演

-高齢者の通いの場の充実と社会参加について

発表者:秋田県小坂町福祉課町民福祉班 主事 三政 貴秀氏

グループでの意見交換

○参加者:74 人

(内訳)	地域助け合い協議会委員	13 人	(17.6%)
	民生委員	27 人	(36.5%)
	地域の代表者(地域公民館長等)	6 人	(8.1%)
	その他	28 人	(37.8%)

○回答者:46 人 (回収率 62.2%)

⑨ 年代	20代	1 人	(2.2%)
	30代	0 人	(0.0%)
	40代	2 人	(4.4%)
	50代	3 人	(6.5%)
	60代	26 人	(56.5%)
	70代以上	14 人	(30.4%)
⑩ 性別	男性	27 人	(58.7%)
	女性	19 人	(41.3%)
⑪ 回答者の内訳	地域助け合い協議会委員	11 人	(23.9%)
	民生委員	18 人	(39.1%)
	地域の代表者(地域公民館長等)	10 人	(21.7%)
	介護事業所関係	1 人	(2.2%)
	一般市民	1 人	(2.2%)
	その他	4 人	(8.7%)
	未記入	1 人	(2.2%)
⑫ 参考になったか	大変参考になった	20 人	(43.5%)
	参考になった	25 人	(54.3%)

参考にならなかった	0人	(0.0%)
未記入	1人	(2.2%)

⑬ 今後の地域での活動に取り入れられること

ある	32人	(69.6%)
ない	6人	(13.0%)
未記入	8人	(17.4%)

* 「ある」場合、取り入れたいと思ったこと

- ・ 外に出でのサロン
- ・ 男性の集まりについて～時間をずらし、男性同士のコミュニケーションの取り方として、アルコールでのサロンもあっても良いのかと思いました。
- ・ 地域の要望への取り組み方について
- ・ 何でもお試し感覚でやってみる～この考え方には安心しました。ひとり一人の幸せ感は千差万別。身近な所から、やれることから進めてゆこう！と話し合いました。
- ・ 各世帯へのPR
- ・ お茶っこ会で、今日のお話を皆さんに伝えて、いかに参加することが大事。地域活動に参加することで、認知症のリスクが低い 等々
- ・ 困り事のある人⇒何か助けられることがある人
- ・ お茶っこサロン
- ・ 参考にしながらこれから考えてみたい。
- ・ 人の運搬について
- ・ 地域活動に参加している人々が健康であるとのことで、当地域でも出来るだけ高齢者等の参加を促したい。
- ・ 自分の地域でも、相談や話し合いが出来る組織づくりが必要と思った。
- ・ お茶っこ会等の発展開催
- ・ 担い手について
- ・ 厚生労働省の新しい方向性がわかり、良かった。
- ・ 市がバス（車）を貸し出す。
- ・ 男性のサロン参加について
- ・ 男性が積極的に関わることが出来る雰囲気づくり
- ・ 地域単位で、小さいながらも活動出来ることがある。
- ・ お試し感覚でやってみること
- ・ 何を必要としているかのアンケートが大切
- ・ 男性参加のための飲み会の実施
- ・ 39 ページの部分…足りない活動の把握の方程式

- ・ サロンを増やす、活発に交流する。
- ・ デイサービス利用に繋がらない要支援者は、サロンにつなげれば、週1回の通いの場の確保が出来ると思う。
- ・ 生き残るのは、変化できる者
- ・ 考え方、方向性について勉強になった。

⑭ 興味がわいたこと、学びとなったこと

- ・ 農業の場がコミュニティの場になっていること。
- ・ 地域で何にニーズがあるのか、具体例がないので、興味がそれ程わかかなかった。
- ・ 地域のつながりのつくり方
- ・ 自治会のまとまりが大事だということ。
- ・ 役員をすることで死亡の率が低い。
- ・ サロン等に参加する人は、5年若返る
- ・ 社会参加活動による介護予防
- ・ 町が自治会へ除雪車の貸与、送迎バスの貸与
- ・ なんでもいい、趣味の会でもいい、とにかく出ること。その機会もつくって暮らしていくことがいいことが分かりました。
- ・ サロン運営の苦勞、課題は何なのか。
- ・ 終わりの質問の答えの方が聞きがいがありました。
- ・ 人口が少なくても、38の自治会があること。各地域ごとに特性があり、小さい集まりが数あることが良いと思う。
- ・ 地域の特性に合った活動をしていた。(スノーバスター)
- ・ 通常の介護サービスではなく、地域の中での日々の取組が大切と感じた。地域で何が必要かアンケートをとることが大切。
- ・ 46ページの部分…「最初から形を決めない なんでもお試し感覚でやってみる」「生き残るのは、変化できる者」「三人寄れば文殊の知恵」「餅は餅屋」
- ・ やっぱりそうかと思った。(健康寿命)
- ・ 就労も介護予防…そうだなと再認識しました。
- ・ 役割を持つことで、気持ちに変化が出てきた。⇒自己有用感(出来ることで良い)
- ・ 最初から形を決めず、何でもお試ししてやってみる。
- ・ 地域包括ケアの内容が理解出来た。

⑮ 次回の参加	する	36人 (78.3%)
	しない	1人 (2.2%)
	未記入	9人 (19.5%)

⑩ 意見・要望

- ・ これまでの創出研究会で出しつくされたことばかりで、目新しいものはなかった。具体的取組、諸問題、予算について話していただけなかった。
- ・ 高齢者介護が今後変化していく状況を、市民に良く認識していただくことが大切と思います。
- ・ 講演時間が長過ぎる。年配者を相手の講演は、短めに。集中出来ない。
- ・ ポジティブに色々取り組んでいきたいと思います。
- ・ 講演終了後の質問にも具体的に分かり易く説明してもらい、すごく良かったです。
- ・ 地域公民館等での介護予防の講話等を希望する。
- ・ 新しい情報が勉強出来て、良かったです。これからもよろしくお願いします。
- ・ 市内のサロン運営の中心となっている方々の話を聞いてみたい。
- ・ 小坂町と大船渡の町の違いから、参考かつ実践となるのは難しいと感じました。
- ・ 人を集める方法として、具体的な例を提示していただきたい。
- ・ 支え合いを推進するにあたって、もっと若い世代を取り込んでいくには、どうしたらいいのかを気にかけている。これから年を重ねていく世代(40代くらい)にもっと関心を持ってもらいたい。
(支える側、支えられる側予備軍)
- ・ 質疑応答の時間が少し長いように感じた。(勿論、各地域の質疑応答は聞きたいのだが)
- ・ 早く、楽になりたい。

平成 30 年度第 3 回地域助け合い創出研究会 アンケート集計結果

○開催日:平成 30 年 12 月 3 日(月) 13:30~16:00

○内 容:講演

-地域の移動手段を考える

発表者: NPO 法人いわて地域づくり支援センター 常務理事 若菜千穂氏
グループでの意見交換

○参加者:77 人

(内訳)	地域助け合い協議会委員	12 人	(15.6%)
	民生委員	25 人	(32.5%)
	地域の代表者(地域公民館長等)	5 人	(6.5%)
	介護事業所関係	7 人	(9.0%)
	その他	28 人	(36.4%)

○回答者:48 人 (回収率 62.3%)

⑰ 年代	20代	3 人	(6.3%)
	30代	2 人	(4.1%)
	40代	5 人	(10.4%)
	50代	1 人	(2.1%)
	60代	18 人	(37.5%)
	70代以上	19 人	(39.6%)
⑱ 性別	男性	29 人	(60.4%)
	女性	19 人	(39.6%)
⑲ 回答者の内訳	地域助け合い協議会委員	14 人	(29.1%)
	民生委員	15 人	(31.3%)
	地域の代表者(地域公民館長等)	7 人	(14.6%)
	介護事業所関係	6 人	(12.5%)
	その他の公的機関	2 人	(4.2%)
	未記入	4 人	(8.3%)
⑳ 参考になったか	大変参考になった	24 人	(50.0%)
	参考になった	22 人	(45.8%)

参考にならなかった	0人	(0.0%)
未記入	2人	(4.2%)

21 今後の地域での活動に取り入れられること

ある	37人	(77.1%)
ない	5人	(10.4%)
未記入	6人	(12.5%)

* 「ある」場合、取り入れたいと思ったこと

- ・ 交通関係（事故）について
- ・ 地域のために、地域の方がやるということ。地域の方に理解してもらう。
- ・ 若菜先生に具体的に指導をいただきたいと思いました。
- ・ 生活圏域で捉える部分、地域住民の状況を調査し活用出来たらと思う。空白地有償運送の取組事例。
- ・ 移送を取り入れられるといいのですが、なかなか難しそう。
- ・ 高齢者の移動手段
- ・ 今後の話し合いの中で、地域の移動手段が感心事でもあり、参考になった。
- ・ 具体的にこれとは言えないが、自分なりの状況に合わせ考えていきたい。
- ・ 地域の移動手段を考える時、どのニーズから対応するかが大切。
- ・ 具体的に「暮らしの足づくり」を考えたい。
- ・ これからのあり方を、もう少し時間をかけて検討すべき。
- ・ 移送そのものの楽しみ（バスでの会話）、目的の達成（買い物）などがあるのが良いと思いました。
- ・ 行政と地域がタイアップした運営
- ・ 地域全体で、どの程度必要と感じているか調査して欲しい。
- ・ 地域というよりも、町内全体で取組まなければ、一地域だけでは難しい。
- ・ 交通空白地有償運送・・・やれるのであれば、検討してみたい
- ・ 大船渡町内には、移送サービスの要望がゼロではないが、タクシー業者も近く、移送サービスの実施は難しい。
- ・ 自家用有償運送
- ・ 小さな拠点づくりが先決の様に感じた。
- ・ 地域住民、行政、交通事業の三位が同じ責任の位置となって、協同していくことが出来たらいいと思います。
- ・ 地域の移動手段については、事例等とても参考になりました。
- ・ 意見の聞き方
- ・ 地域での取り組み方や行政等との関わり方

- ・ 地域の方から伺った、地区内の実情について
- ・ あったが、具体的にどうしたいかまでは分からなかった。課題が多々あり、運送以外にも必要なことがあるので。
- ・ まずは、地域のニーズを把握して、行政や関係機関と住民が連携した上で方向性を見つけて行けば良いと思う。
- ・ Y・Sセンターの送迎バスの休みの日（月曜日）の活用
- ・ 実証実験を「段階的に行う」こと。
- ・ 色んな型式があり、参考とさせていただきたい。

22 興味がわいたこと、学びとなったこと

- ・ 乗り継ぎが交流と賑わいを生む。乗り継ぎ拠点が賑わいに繋がる。
- ・ 小さな拠点をづくり、乗り継ぎをすることで交流が図れるということに、なるほど…と思いました。
- ・ ニーズの把握のあり方について…個人のためのニーズより、全体のニーズの把握が大事であること。本人に聞く事より、寄り添い、感じとる事が大事であること。
- ・ 出席者一人ひとりが、真剣に課題に取り組んでいる様子に心打たれた。
- ・ 事例があったのは良かった。
- ・ 人同士の結びつき、人への信頼が多くの方を助けるベースになること、日常の細やかな対応が人の真意や本当のニーズを把握する鍵かな？と思います。
- ・ 「乗り継ぎが、交流や賑わいを生む」外出出来ない人が多くなると、個人でも町内でも低下する。
- ・ 地域内でのコミュニティバス等の利用はないと思っており、必要とは思っていない。
- ・ 道路運送法の兼ね合い
- ・ 地域の中にどんなニーズがあるのか、声を伺っていきたいと思います。
- ・ 各地の取組
- ・ 移送サービスの形態について
- ・ 地区毎の特性、ニーズの掘り起こしの大切さについて
- ・ 関係機関とのやりとりの大切さについて
- ・ 交通政策の展開と実態。基本を学ぶことが出来て良かった。ベースになるものだと思う。
- ・ 制度のスキマの出来ることについて
- ・ 乗り継ぎの推奨
- ・ 他市町村の取り組みが聞けて良かった。実際に見てみたいと思いました。
- ・ 空白地有償運送について

23 次回の参加	する	38人 (79.2%)
	しない	2人 (4.1%)
	未記入	8人 (16.7%)

24 意見・要望

- ・ 有意義な講義でした。
- ・ 助け合い事業の立ち上げや活動について、具体的なディスカッションがあれば、地域の活動へすぐに生かせると思いました。
- ・ 会場が寒かった。
- ・ グループワークの際、進行係、記録係が最初から適任者が選出されていたため、意見交換が効率的に行われた。今後是非このようにしてほしい。
- ・ 地域公民館の代表者等、もっと多く出席する必要があると思う。
- ・ 段取り（会場設営、音響）が良く、80%成功！
- ・ 講師の説明が分かりやすく、実践の裏付けもあるので、説得力がありましたね。
- ・ シルバー人材センターの活用を進めてほしい。
- ・ 進行、記録、発表等の役割が明記されており、グループワークでは、安心してディスカッションに参加出来た。
- ・ 市で本気に取り組んでほしいコミュニティバス
- ・ 現在の生活の中で、自家用車以外の交通手段を考えていない。今後もそうだと思う。
 - 移動する路線が少ない
 - 〃 金額が高い
 - 〃 時間が合わない行政の支援
- ・ 有償運送やボランティアでの活動も良いが、利用者がどのくらいいるのか掴めない。
- ・ 地域によっては、遠慮や気兼ねなどがあり難しい事もあるかな。
- ・ 資料は、カラーでいただけるとありがたいです。
- ・ 参考になりました。
- ・ 何回やっても政策に反映されない。具体性がないのか、ニーズが思ったよりないのか。そこも掘り下げて続けていくべきなのか検討してほしい。
- ・ ファシリテーターが良かったです。講演は学校型式のほうが、前を向いて聞きやすい。
- ・ 前回の助け合い創出研究会の内容が早速住田で行われており、会を持ったことが形になることもあり、研究会として成り立っている印象を受けている。